

2020年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園中学校・高等学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- 1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する
 - (A)カトリックの精神、ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育、特に「アシステンツァ」の理解を深める
 - (B)生徒教員共に、祈りと自己の振り返りの時をもつ
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - (A)様々な面における安全教育を向上させる
 - (B)問題事象の早期発見、早期対応を行う
- 3 『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する
 - (A)2020年を皮切りとする改革に向けて多様な価値を求める教育の新しい方向性を実現する
 - (B)女子校の教育として、礼儀、マナー、身だしなみの指導力を向上させる
- 4 校種間、兄妹校間の連携を強化する
 - (A)「はぐくみの園」の精神に則り、15年、12年、6年一貫教育の賛同者を増やす
 - (B)大阪星光学院との連携による効果を形にする
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - (A)他校種、法人の教職員と共にあることを意識する
 - (B)社会人として、周囲に喜ばれる人を育てる

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア.自己評価アンケート結果と分析	イ.学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○緊急時の情報伝達が適切 ○清掃・安全管理が行き届いている ○教職員は気持ち良い挨拶を行っている ○建学の精神・教育理念に共感できる ○個人情報適切に取り扱っている ○教育内容の公開に努めている ○生活指導により礼儀が身につけている (すべて満足度83%以上) <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域・小学校との連携 ○カリキュラムが充実している ○家庭学習が十分行われている 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2020年度学校評価に関する検討は2021年3月10日(水)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○満足度の高い項目では、本学園の教育理念や情操教育の高さがよく表われている。 ○前・中1→現・中2、前・中2→現・中3、前・高2→現・高3に関し、回収率の上昇の理由が気になった。 ○「学校を選ぶ上で重視した点」が「満足度の高い項目」に入っている点は一定の成果であると考えられる。 ○入学前は重視していなかった項目が、「学校に期待すること(求めること)」に入っているのは、子供達が安心して通っている結果、「ただ楽しく通ってくればいい」から「もっともっと」と欲が出て来たのだろうと感じる(自身も含めての感想である)。学校が子供たちにとって、安心して通える場所になっている証であり、保護者として安心できる。

	<p>○校風を重視して学校を選んだとの回答が多いのに対し、生徒数が少なく、行事も少なく感じられる。学校の雰囲気も良く、優しく穏やかな生徒が多いので、良さを沢山アピールして生徒数が増えることを期待したい。</p> <p>○学習面においては、満足度の低い項目に家庭学習の不十分さが挙げられており、大学進学に向けて、学力向上を求める保護者の願いが伝わってくる。「主体的に行動する力を育てる」ことは「生きる力を育む」ことでもあり、これからのアクティブラーニングの進め方に大きく関わってくる。この観点からも「学びの森」の学習は非常に効果の高い取り組みであり、今後もさらに進めて頂きたい。</p> <p>○満足度の低い、家庭学習時間の少なさに関しては、同様に満足度の低いクラブとその他とのバランスが関係しているのではないかと。</p> <p>○本学園に求められているのは情操教育とシスターがいる雰囲気だと理解できるアンケート結果だと感じた。進学校化を目指すと共に、学園にシスターが居る校風を全面に出したブランディングで他校と一線を画して頂きたい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

※満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

中期的目標	中期行動計画	2020年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(丸数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	(A)カリックの精神、ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育、特に「アシステンツァ」の理解を深める	聖書の学びを通じて創立者の教育を深めていく	サレジオの学校の教員としての意識向上	③学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。 →満足度79.1%	△:校長との面談を年間を通じて継続したが、研修の機会を十分に確保できなかった。
	(B)生徒教員共に、祈りと自己の振り返りの時をもつ	朝礼、終礼の祈りを丁寧に、落ち着いた環境の中で行うために、司牧部を中心に各担任、副担任が指導にあたる	「教育は心の問題である」という創立者の言葉に対する教員の意識向上	⑥学校は、教育目標(および指導方針=シラバス)に沿った教育を行っている。 →満足度76.7%	○:校長訓話以外に、朝礼講話や祈りの時間を通じて自己省察を続けている。
	(C)中学、高校それぞれの段階における「自立」を育てる	「学びの森」「学びの森ジュニア」を通じて学びの楽しさを知る	好奇心を学びに繋げる	②保護者として、建学の精神および教育理念に共感できる。 →満足度86.6%	△:生徒の自主性・自立性を期待通りには伸ばせていない。
	(D)丁寧に組織的な進路指導の継続と進路実績を向上させる	放課後自習サポートを手厚くし、難関大学に挑戦する生徒を増やす	生徒の自己実現と進路実績向上、中高の存続	⑪子どもは、自身の進路について十分に考えている。 →満足度72.0%	△:生徒を鼓舞して高い目標へと導くしくみを構築できていない。

中期的目標	中期行動計画	2020年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(丸数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
2 全「園児・児童・生徒の安全管理を徹底する」	(A)様々な面における安全教育を向上させる	新型コロナウイルス、SNS使用、防犯、薬物乱用防止、防災対策のため常に研修や話し合いの機会をもつ	教員、生徒の危機管理意識の向上	③学校は、子どもの心身の健康に関するカウンセリングの体制を整備している。 →満足度65.4%	○:コロナ対策指導を徹底し、生徒の不安に対応しながら安心・安全の確保に努めた。
	(B)問題事象の早期発見、早期対応を行う	管理職、学年、生徒指導部、教育支援との情報共有を密に行い、組織的に対応する	生徒の安全確保、問題事象の早期対応	④学校は、いじめ防止について十分に取り組んでいる。 →満足度66.9%	○:保護者の意見を尊重して期待に応えるため、教員が協力している。
3 人「人を『育心』にする」 良心的な教員、職員、よき社会	(A)2020年を皮切りとする改革に向けて多様な価値を求める教育の新しい方向性を実現する	教師力(授業力・生徒指導力)の向上をはかる 研究授業をし、研修会に参加する	教育の『質』向上	⑪子どもは、各教科のカリキュラムが充実していると言っている。 →満足度49.6%	○:研究授業を重ねつつ、2022年度からの教育刷新にむけて準備を進めている。
	(B)女子校の教育として、礼儀、マナー、身だしなみの指導力を向上させる	教員と生徒のふれあいを大切にし、指導の信頼に活かす	教育の『質』向上	⑤子どもは、学校の生活指導を通じて、中高生らしい礼儀・マナーを身に付けている。 →満足度83.6%	△:SNS関係トラブル防止の研修を行ったが、十分な成果が得られていない。
4 校種間、強化する 兄弟校間の連携を	(A)「はぐくみの園」の精神に則り、15年、12年、6年一貫教育の賛同者を増やす	中学への内部進学者への増加を目指す	ドン・ボスコの学校として意識の向上	⑥中学校・高等学校は、小学校と連携した活動を行っている。 →満足度52.6%	△:中学校への内部進学者7名。少しずつ成果をあげている。
	(B)大阪星光学院との連携による互いの効果を求める	教科、部活動等、可能なところから大阪星光学院の教員と協働する機会を増やす	大阪星光学院との連携による本校の教育の拡幅	②学校は、子どもにとって将来につながる総合的な学習を十分に行っている。 →満足度72.2%	△:チャレンジゼミ、ほしゼミなどは継続されている。
5 自然に挨拶が交わされる学園	(A)他校種、法人の教職員と共にあることを意識する	他校種、法人の教職員との自然な笑顔の挨拶、「紹介ブック」を用いながら顔と名前を知る	ファミリーとしての学園への帰属意識向上	⑦教員間での連携が十分に図られている。 →満足度71.4%	△:小学校算数の授業への中高数学科教員の協力が実現している。
	(B)社会人として、周囲に喜ばれる人を育てる	笑顔で自然に挨拶の声が飛び交う心の風土づくりを行う	城星全体としてのoneチーム感向上	⑮教職員は、気持ちの良い挨拶を行っている。 →満足度90.3%	○:校門の挨拶運動が継続されている。